

小中学校教員の授業交流



小学校・中学校の教師が相互に授業交流や研究授業への参加を行っています。授業交流等を通して教師同士の情報交換が活発になり、小学校からの系統性を意識した授業実践につながっていきます。また、小学校の授業に中学校の教師が参加することで、児童が中学校の教師に親近感をもって入学することにもつながっています。

授業交流をきっかけに

中学校理科の授業交流に参加した小学校教師が、「粒子」分野を苦手としている生徒が多いことを知り、「粒子」分野につながる学習を見直して授業実践を行いました。その後、中学校での変容が見られました。授業交流をきっかけにした授業改善が児童生徒の学力向上につながりました。



ふるさと・コミュニケーション科の充実



【後期で育てたい力】
ふるさと東郷の課題を把握し、ふるさとに奉仕しようとする思いをもつことができる。

単元内容

ふるさと東郷で考える自己表現
(職場体験学習・進路学習)

伝える思い・受け止める思い
(地域のボランティア活動)

職場体験学習やボランティア活動を通して、感謝や奉仕しようという気持ちが高まり、自分の進路選択についての考えが深まっています。

ボランティア(老人ホーム)



【中期で育てたい力】
ふるさと東郷のことを調べ、ふるさとに誇りをもち、愛する心をもつことができる。

単元内容

TOGOとわたし
(小中交流学習)

各校区の歴史・文化・伝統芸能・豊かな自然を調べ自分の思いや地域の人々の思いを伝えます。前期と合わせて、東郷地区のほぼすべてを調べることで、東郷のよさを知り、ふるさとを誇りに思う気持ちが高まっています。

田海川で水性生物調査



【前期で育てたい力】
自分の校区のことを調べ、校区に感謝し、誇りをもち、愛する心をもつことができる。

単元内容

〇〇はかせになろう
(自校学習)

自分が住んでいる校区を調べ、前期の交流学習で発表します。自分たちの校区のすばらしさを発表することで、校区に誇りをもつことができます。また、他の校区のよさを聞くことで、中期の交流学習への意欲が高まります。

おいしい藤川米の発表



4・3・2制のよさを生かす交流活動の推進



本の読み聞かせ
小学校3・4年生と中学校3年生の前期・後期交流学習をとおして、小学生は中学生へのあこがれを、中学生は貢献する満足感を味わいます。スタートして2年、充実した活動がすべての学校で展開されています。

子どもたちはここに
中学校3年生が交流内容を考え、事前に準備を行い、当日はグループごとに各小学校に分かれて交流活動を行います。小学生も中学生もここに笑顔いっぱいです。

つながる喜び
小学校5・6年生・中学校1年生が宿泊学習や中期の交流学習を通して、つながる喜びを味わいます。中期の様々な体験が、中学校入学への安心感につながります。

子どもたちはどきどき
初めての経験でどきどきと緊張しますが、中学校1年生がリーダーシップを発揮し、小学生を引っ張っていきます。そのリーダーシップが次の学年へと受け継がれていきます。

学ぶ楽しさ
5小学校の1～4年生が、様々な交流活動を通して、学ぶ楽しさを味わいます。小規模校の子どもたちにとっては、多くの友達とふれあう絶好の機会です。

子どもたちはわくわく
他の学校との交流活動は、子どもたちにとってとてもわくわくする体験です。前期交流学習やテレビ会議の発表に向けて、練習を重ねる意欲的な姿が輝いています。



言葉をつなぐ(英語活動部会)

5小学校の共通実践
1単位時間の学習過程を作成し、どの学校でも同じような授業の流れで学習を進めるようにしました。また、学習過程「Greeting」の際に、学年の発達段階に応じて、天気・曜日・月・日にちを聞くようにし東郷地域全体で、1年生から英語活動の積み上げを行うようにしました。

英語環境の整備
クラスルームイングリッシュの積極的な活用を目指し、教室や廊下に英語コーナーを設け、児童も教師も英語にふれあう英語環境の整備をすべての学校で進めています。

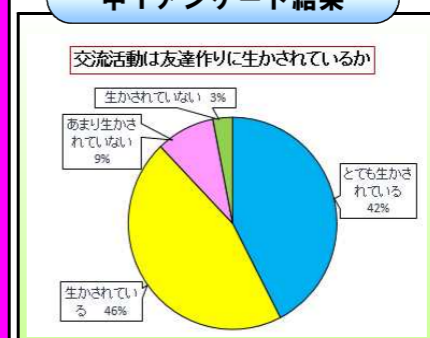
小小連携による授業
鳥丸小学校と藤川小学校の1・2年生による小小連携の英語活動の授業を行いました。小規模校同士の授業ということで、たくさんの友達とチャットやゲーム活動を通して交流を深め、積極的にコミュニケーションを図り、楽しく英語活動に取り組んでいます。

英語活動部会では、英語に慣れ親しませるためのチャットやゲーム活動の工夫、中学校の英語の学習につなげるための言語材料系統表の活用など、英語活動の充実に向けた小中連携の取組を進めています。

心をつなぐ(心の連携部会)

東郷地域の共通実践
東郷地域の小中学校すべてで、「5分前集合」「人の話を体に向けて聞く」「正しい姿勢」を共通実践項目としています。この実践項目を基に、各学校の実情に合わせて指導しています。集合や話の聞き方が良くなり、落ち着いた雰囲気の中で授業が始められる等徐々に成果が出てきています。

部会の活動
○児童生徒の情報交換
・小中連絡会実施(5月)
○意識調査の実施
・中1(7月)
・小6(12月)
・結果の分析
・分析結果の報告
○保健指導・生徒指導
・共通実践の推進
・情報交換



心の連携部会では、小中接続時における子どもたちの課題や変容を把握するために「学校生活アンケート」を実施しています。中1のアンケートでは、90%もの生徒が小学生の頃に行った交流学習(授業での交流学習、社会科見学、遠足・飯アイルランドウォッチング、宿泊学習・修学旅行など)が入学後の友達づくりに生かされていると答えています。接続期の交流は特に大切になっています。今後も、小中学校の連携を深め充実を図っていきます。

学びをつなぐ(学びの連携部会)

9か年カリキュラム
9か年を見通した国語科・算数・数学科・理科のカリキュラムを作成し、系統的な学習指導と教員の授業交流に生かされています。それぞれの教科について、「各期における表出する姿」「東郷地域の重点指導領域の指導計画」「交流授業推進モデル」等を作成しています。理科においては、中学校教員の乗り入れ授業が効果的な場面を作成し、授業交流のよさを生かす具体的な取組を進めています。今後、社会科のカリキュラムを作成していく予定です。

家庭学習啓発ポスター
東郷中学校区では、家庭学習啓発ポスターを全家庭に配布し、掲示してもらうことで、家庭学習についての意欲の高揚を図っています。今年度は、ポスターの実効性をより高めるために、家庭学習の内容や家庭での掲示場所について調査を行い、部会で共通理解を図りました。

学業指導の統一
東郷中学校の授業の心得七箇条を参考に、各小学校で、統一された学業指導を行うことで、中1ギャップの解消や中学校の授業へのスムーズな移行を目指します。今年度中に作成を行い、来年度から統一された学習のしつけ・きまりで指導していきます。特に、チャイムによる着席・学習用具・話の聞き方など、学習の基本を小学校段階で身に付けさせます。

東郷中学校区では、各校で家庭学習強調週間を設定しています。家庭学習の目標時間(10分×学年+30分)以上を達成できるように、家庭と連携した取組を進めています。

自分の思い・地域の人々の思いをつなぐ

子どもたちをつなぐ